キリル・ゲルシュタイン
ピアノ・リサイタル

Kirill Gerstein
Piano Recital

2021年1月16日(土) 14:00開演　紀尾井ホール

2:00p.m., Saturday, January 16, 2021 at Kioi Hall

主催：ジャパン・アーツ
後援：ドイツ連邦共和国大使館

日独交流160周年
Jahre Freundschaft
Deutschland – Japan

ショパン ― 孤高の天才の人生と作品を追う ―

横山幸雄
入魂のショパン

<All Chopin Program>
2021(vol.12)

2021年5月5日(水・祝) 11:00
東京オペラシティ コンサートホール

＜全6部＞ 第1部 11:00　第4部 16:30
第2部 13:00　第5部 18:30
第3部 15:00　第6部 20:00

●プレミアム1日通し券 ¥12,000
●1日通し券 ¥10,000　●各部券 ¥3,500

©ZIGEN

お問い合せ ジャパン・アーツぴあ　HPでは24時間受付中！
0570-00-1212　チケット料金は税込みです。
www.japanarts.co.jp　twitter @japan_arts

---

myrios classics

「ブリテンの再来」と評される
才気煥発アデスの華麗な世界

トーマス・アデス：
①「パウダー・ハー・フェイス」によるパラフレーズ
～2台ピアノのための
②「皆殺しの天使」～子守歌
③マズルカ
④イン・セブン・デイズ～ピアノと管弦楽のための

キリル・ゲルシュタイン(ピアノ)
①トーマス・アデス(第2ピアノ)
④トーマス・アデス(指揮)
タングルウッド音楽センター・オーケストラ

●MYR-027(CD) 直輸入盤／オープン価格

輸入・販売元／㈱キングインターナショナル　https://www.kinginternational.co.jp

PROFILE

© Marco Borggreve

キリル・ゲルシュタイン(ピアノ)
Kirill Gerstein, Piano

ピアニスト、キリル・ゲルシュタインのレガシーは、ロシア、アメリカ、そして中央ヨーロッパの伝統と、飽くなき好奇心を融合させた音楽作りにある。これらの資質とオーケストラ、指揮者、器楽奏者、歌手や作曲家たちと築き上げた関係性が新旧両方の音楽のレパートリーへの探求を可能としている。バッハからアデスまで、ゲルシュタインの演奏は明快な表現、優れた洞察力と知性、巧みな技術、そしてエネルギッシュで想像力豊かな音楽性と存在感が、彼をトップの演奏家たらしめている。

ロシアのヴォロネジ生まれ。14歳で渡米し、史上最年少でバークリー音楽大学の学生となる。その後ドミトリー・バシキーロフとフェレンツ・ラドシュらに師事。第10回アルトゥール・ルービンシュタイン・コンクール優勝、2002年にはギルモア・ヤング・アーティスト・アワードを受賞。2010年には、エイヴリー・フィッシャー・キャリア・グラントとギルモア・アーティスト・アワードの両方を受賞し、その賞金をもとに、ティモ・アンドレス、チック・コリア、アレクサンダー・ゲール、オリヴァー・ナッセン、ブラッド・メルドーらに新曲の委嘱もしている。これまでにベルリン・フィル、ウィーン・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ボストン響、ニューヨーク・フィル、ロンドン響等、数々の著名な交響楽団と共演。ウィーンのコンツェルトハウスをはじめ、ウィーン楽友協会、ロンドンのウィグモア・ホール、ストックホルム・コンサートホールなど世界各地の権威あるホールでリサイタルを行っている。

丁寧にキュレーションされたキリル・ゲルシュタインのミリオス・クラシックスの最近の録音プロジェクトには、ボストン響とサカリ・オラモとの録音によるブゾーニの記念碑的なピアノ協奏曲や、ストーム・ラージと、ゲルシュタインの以前のメンターであるゲイリー・バートンが特別に参加した「ザ・ガーシュウィン・モーメント」、ニューヨーカー誌に2016年の注目盤に選出されたリストの「超絶技巧練習曲集」、そして「チャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番」(1879年版)などがある。

また、音楽家にとって教育に携わることは不可欠と考え、2007年から2017年の間、シュトゥットガルト音楽大学でピアノ・クラスを指導した。2018年10月には、ベルリンのハンス・アイスラー音楽大学でピアノの教授に就任。さらに、クロンベルク・アカデミーの新設の「サー・アンドラーシュ・シフ・パフォーマンス・プログラム・フォー・ヤング・アーティスツ」でも後進の指導にあたっている。

PROGRAM

ドビュッシー：ピアノのための12の練習曲
C. Debussy: 12 Etudes

第1曲「5本の指のために ーチェルニー氏にならって」	No. 1. Pour les cinq doigts
第2曲「三度音程のために」	No. 2. Pour les tierces
第3曲「四度音程のために」	No. 3. Pour les quartes
第4曲「六度音程のために」	No. 4. Pour les sixtes
第5曲「オクターヴのために」	No. 5. Pour les octaves
第6曲「8本の指のために」	No. 6. Pour les huit doigts
第7曲「半音階のために」	No. 7. Pour les degres chromatiques
第8曲「装飾音のために」	No. 8. Pour les agrements
第9曲「反復音のために」	No. 9. Pour les notes répétées
第10曲「対比的な響きのために」	No. 10. Pour les sonorites opposees
第11曲「組み合わされたアルペッジョのために」	No. 11. Pour les arpeges composes
第12曲「和音のために」	No. 12. Pour les accords

＊　＊　＊

ハイドン：幻想曲(カプリッチョ) ハ長調 Hob. XVII: 4/Op. 58
F. Haydn: Fantasia (Capriccio) in C Major, Hob.XVII:4 / Op. 58

ベートーヴェン：幻想曲 ト短調 Op. 77
L. v. Beethoven: Fantasia in G Minor, Op. 77

シューベルト：幻想曲「さすらい人」ハ長調 D760/Op. 15
F. Schubert: Wanderer Fantasie in C major D760 / Op. 15

第1楽章　アレグロ・コン・フォーコ・マ・ノン・トロッポ	1st mov. Allegro con fuoco ma non troppo
第2楽章　アダージョ	2nd mov. Adagio
第3楽章　プレスト	3rd mov. Presto
第4楽章　アレグロ	4th mov. Allegro

キリル・ゲルシュタイン ピアノ・リサイタル 2021年 日本公演

1月16日(土)	【東　京】	紀尾井ホール 主催：ジャパン・アーツ
1月17日(日)	【所　沢】	所沢市民文化センター ミューズ アークホール 主催：(公財)所沢市文化振興事業団

協力：キング インターナショナル

原　明美（音楽評論家）Akemi Hara

ドビュッシー：ピアノのための12の練習曲

ピアノのための練習曲（エテュード）のなかで、技術的な鍛錬と共に音楽的な内容も重視した練習曲は、特に演奏会用練習曲（コンサート・エテュード）と呼ばれる。極めて高度な演奏技巧を要求するだけでなく、その全曲または一部が演奏会の曲目として取り上げられ、鑑賞作品としての価値も高い。技術を磨く訓練のためというよりも、ピアニストの技巧の披露が主たる目的となっており、さらには表現力も問われるのである。19世紀、ロマン派の時代には、ショパンやリストによって、このジャンルが大きく発展した。そして、19世紀末から20世紀初頭に生まれた重要な演奏会用練習曲としては、スクリャービン、ラフマニノフ、ドビュッシーの作品がある。

クロード・アシル・ドビュッシー（1862～1918）は、繊細かつ鋭敏な感性によって、水や光などの自然の世界を、ピアノ曲のなかに描いた。それまでとはイメージの異なる、感覚に訴えるピアノ音楽である。「前奏曲集」や「映像」などの名作を生み出し、そのなかに独自のピアニズムを展開した彼が晩年、1915年の8月から9月にかけて驚異的なスピードで書きあげた力作「12の練習曲」は、ショパンの思い出に捧げられた曲集である。ここでは、音程、音階（全音音階、半音階）、装飾音、同音反復、和音、アルペッジョといった、ピアノの伝統的な技法が演奏者に課せられるが、ドビュッシーならではの手法により、従来とは異なる新しいイメージが与えられている。線的な書法や、ゼクエンツを主体とする構造によりながら、協和音に落ち着くことは目指されず、各曲のなかで、音楽がほとんど休みなく流れてゆく。そして、新たな楽想が次々と生み出されるその譜面は、細かな音符で埋められている。全12曲の内訳は、次のとおりである。

第1曲「5本の指のために―チェルニー氏にならって」:チェルニーの練習曲をパロディー風に扱いながら、ドビュッシー独自の「練習曲」が展開される。

第2曲「三度音程のために」

第3曲「四度音程のために」

第4曲「六度音程のために」

第5曲「オクターヴのために」

第6曲「8本の指のために」:両手の親指以外の8本の指のための練習曲。

第7曲「半音階のために」

第8曲「装飾音のために」

第9曲「反復音のために」

第10曲「対比的な響きのために」

第11曲「組み合わされたアルペッジョのために」

第12曲「和音のために」

ハイドン：幻想曲（カプリッチョ）ハ長調 Hob.XVII:4/Op. 58

古典派音楽の基礎を築いた作曲家として名高いフランツ・ヨーゼフ・ハイドン（1732～1809）は、鍵盤楽器のために数多くのソナタを残したが、ソナタ以外の小品にも注目すべき作品がある。「幻想曲」「カプリッチョ」の二通りの標題で呼ばれるこの小品については、ハイドンがウィーンの出版社に宛てて書いた手紙のなかで言及しており、その日付から、1789年の作と判明している。曲は、プレスト、ハ長調、自由なロンド形式で書かれ、3拍子の軽快なリズムに乗せて、即興的で機知に富む展開を見せる。巧妙な転調も、聴きどころである。

ベートーヴェン：幻想曲 ト短調 Op. 77

ドイツのボンに生まれ、ウィーンで世を去ったルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770～1827）のピアノ独奏曲といえば、作品番号つきの32曲のソナタが重要な位置を占めるが、彼は、ソナタの他にも数多くの名曲を、ピアノのために残した。

今回演奏される「幻想曲」Op.77は、1809年に作曲され、フランツ・ブルンスヴィク伯爵に献呈された。曲のなかでは、調もテンポも目まぐるしく変わり、奇想天外な展開を見せる。最初はト短調で、意表をつく始まり方をしたあと、ヘ短調、変ニ長調、変ロ長調、ニ短調、変イ長調と、次々と転じ、さらに、ロ短調を経て、ロ長調に落ち着く。そして、このロ長調の優美な主題に基づいて、変奏が展開されたあと、コーダに入り、アダージョで締めくくられる。楽想が自由自在に変化し、即興性と幻想性に満ちた作品である。なお、調の表示については、曲の冒頭のト短調とされる一方、最後に変奏が続く部分がロ長調であるため、ロ長調とされる場合もある。

シューベルト：幻想曲「さすらい人」ハ長調 D. 760/Op. 15

ウィーンで活躍したフランツ・ペーター・シューベルト（1797～1828）は、31年間の短い生涯のうちに、実に数多くの作品を残した。特に歌曲の分野を発展させたことで知られる作曲家であり、ピアノ曲にも、歌曲を想わせる旋律美があふれている。

シューベルトのピアノ曲のなかで、特に充実した傑作として名高いこの長大な幻想曲は、第2楽章の主題に、彼の歌曲「さすらい人」の旋律が用いられたことから、「さすらい人幻想曲」と呼ばれる。シューベルト自身が「幻想曲」と名づけたこの作品は、1822年に完成され、ピアニストのE.フォン・リーベンベルク　に献呈された。曲は、一定の主要動機によって統一されており、一種の循環形式によるとも考えられる四つの部分が切れ目なく続く単一楽章制でまとめられている。また、四つの部分を楽章とみなして、以下のように4楽章制のソナタと考えることもできる。

第1楽章：アレグロ・コン・フォーコ・マ・ノン・トロッポ、ハ長調。自由なソナタ形式。

第2楽章：アダージョ、嬰ハ短調。歌曲「さすらい人」の旋律を主題とする変奏曲形式。

第3楽章：プレスト、変イ長調。速いテンポのスケルツォのスタイルで書かれている。

第4楽章：アレグロ、ハ長調。対位法的な書法も交えて展開する、華麗なフィナーレ。